

平成30年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 奥 川 清 次 郎
	所在地	むつ市大畑町中島108番地5
指定期間	平成29年4月1日～平成32年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関する事。 2、施設の利用料金の徴収に関する事。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関する事。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関する事。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関する事。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関する事。 7、施設の維持、管理及び修繕に関する事。 8、施設の特性を活かした利用促進に関する事。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要な事。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。
 ※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。
 ※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	90,421	89,961	▲460
うち利用料金額	8,048	7,557	▲491
その他収入	59	90	▲31
うち指定管理料	82,314	82,314	0
支 出 合 計 (B)	90,421	91,085	664
うち人件費	57,207	57,686	479
収支差 (A-B)	0	▲1,124	▲1,124
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>収入合計額は、利用料金に自然の家利用者数が10,000人(延)あるものとして8,048千円を計上した90,421千円を計画額としているものであるが、計画額に460千円少ない89,961千円の実績となった。</p> <p>実利用人数及び延べ利用人数は平成26年度以降最多となったが、宿泊を伴う団体数や滞在日数が減少した。宿泊利用団体の利用率向上に努めたい。</p>		

	<p>支出</p> <p>支出合計は計画額90,421千円に664千円多い実績となった。人件費の増額と、物品の入れ替えを計画的に進めたことが増加の要因になった。</p>
--	--

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	利用者数	10,000	10,507	507
	宿 泊	1,600	1,703	103
	食 事	13,000	12,366	▲634
	貸 館	170	134	▲36
	リネン	2,400	2,027	▲373
	教 材	2,800	2,775	▲25
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
黒森山登山～春～	27	27	27
家族で野外クッキング	21	25	26
家族でBBQ	35	54	53
家族でキャンピング	8	31	39
オートキャンプ	0	0	6
黒森山登山～秋～	20	22	25
体感するジオパーク	23	41	40
伝統体験「べこもち作り」	54	65	50
「Let's Enjoy English」	39	40	40
伝統体験「としなづくり」	40	37	40

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価 (A：優良 B：適正 C：改善要)

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A

②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	A
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

<p>平成30年度は利用人数目標の1万人を達成し、ジオパークの拠点施設として人と自然が触れ合う交流(自然体験活動)を多くの利用者へ提供し、誠意ある対応に努め、癒しと潤いのある施設としての役割を目標に掲げ事業運営に取り組んだ。</p> <p>利用団体数369団体、利用延べ人数10,507人となり目標に掲げていた1万人を達成することが出来た。年度初めに実施している広報活動で出前講座の大幅な増加が増えたことも延べ人数の増加に繋がったと考える。利用団体数も昨年より約2倍の増加となった。しかし、子供の減少に伴って各学校の人数も減り宿泊利用数も減少する結果となった。</p> <p>繁忙期と閑散期の利用率の差が激しいことから、閑散期における集客が課題である。そのため、来年度も閑散期の出前講座の実施を拡大していきたい。</p> <p>ジオパーク関連事業などが魅力ある事業の開発や多くの集客を図るための広報活動や研修会を積極的に開催したい。さらにこまめな点検と軽微な修繕の実施等、施設管理費軽減を図る。</p> <p>又、次年度から本格的に行う簡易オートキャンプ場の実施し、施設利用率を上げるため努めていきたい。</p>
--

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

<p>目標とする延べ利用者数が10,000人を越えたことは、大きな成果である。学校の宿泊を伴う利用については、自然減という理由もあるが、利用者拡大のために閑散期の使い方を工夫し、結果として目標達成に至ったことは施設職員の努力が伺えたものである。</p> <p>収支については、老朽化した厨房機器の入れ替えのため支出が増加したものの、これによ</p>
--

り、より豊富なメニューの提供と時間短縮が可能となった。また、食物アレルギー保持者向けの調理にも対応しているので、多くの施設利用者に安全な食事を提供できる。

今後は、閑散期における施設利用をうながすPR事業をよりポイントをしぼったものとし、利用者には、自然の家でこそ体験できるという強いインパクトを与えていただきたい。次年度においても、安全安心を第一に利用者増加にむけての取り組みに期待したい。